

人間の安全保障基金によるリベリア共和国における
「妊産婦・新生児死亡率抑制プロジェクト」への支援について

1. 本案件は、国連人口基金（UNFPA）、及び世界保健機関（WHO）がリベリア共和国において実施する「妊産婦・新生児死亡率抑制プロジェクト」に対し、人間の安全保障基金を通じ、341万6,867.29ドル（約3億9,636万円）の支援を行うもの。

2. リベリアでは、内戦の影響により保健システムが機能しておらず、妊産婦及び新生児の死亡率が非常に高いなど、女性・児童等の脆弱な立場に置かれている人々は深刻な健康問題に直面している。

本プロジェクトは、国内避難民が多い7つの地域において、質の高い保健サービスへのアクセスを可能とすること等により上記の課題に取り組むものである。主な活動は以下のとおり。

- （1）医療機関への機材・薬品等の提供、医療関係者に対する訓練・監督等を通じた母子保健サービスの質の向上。
- （2）思春期層を含む女性等の脆弱な立場に置かれている人々及び地域住民に対するリプロダクティブ・ヘルスに関する教育、カウンセリング等の実施。
- （3）既存の妊産婦・新生児に対する保健プログラムの評価・アップデート及びその普及、保健サービスに関する訓練・監督等を通じた政府及び地方自治体関係者等の能力強化。

3. 本プロジェクトの実施により、リベリアの7地域に居住する人々、特に女性及び児童の保健状況が改善され、人間の安全保障の実現につながることを期待される。